

一足のわらじでは本物になれん

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52)＝草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

「役者になる」29歳の会社員が突然会社を辞めると言い出した。映画やテレビのエキストラはしていても、映るのはほんの一瞬。既に幼子が3人。周囲は「絶対あかん」と猛反対した。それでもたった一人背中を押す人がいた。それから23年。草津市の俳優、土平ドンペイさん(52)は、NHK連続テレビ小説「べっぴんさん」(2016～17年)の玉井役などで知られる、味のある脇役となった。

【エリア編集委員・大澤重人】

今だったら、会社を辞めるなんて、渡辺謙さんらスター俳優なんて、そんなアホなことは絶対せんと思えます。

京都の撮影所では、エキストラのことは仕出して言うんです。たとえば時代劇で行商人と

して、渡辺謙さんらスター俳優2人の後ろを歩くんです。視聴者が見るのは前の2人。映るのは2秒だけ、いい加減に歩くのはよそうと思ったんです。この重い荷物を持って、どっかに

合つように、赤穂浪士役ならそ

らくんやな。このシーンは何時かな。監督に聞きに行くんですよ。なんでや? 「時間によって歩き方が違うんです」お前らのことなんか、誰も見てへんわ!」夕方やって言われたら、朝から売りに出て、きょうはよう売れたのか、何も売れなかったのか考えて、この2秒を全然違う気持ちで歩くんです。これ大事やなあと思ったら、毎日仕出しをするのが楽しくなつて。

▲大津市内の会社に勤める傍ら、松竹京都撮影所で週末に大部屋俳優として活動していた▼午後5時の勤務終了後に太秦(京都市右京区)に飛んで行って、6時40分のスタートに間に合うように、赤穂浪士役ならそ

の格好をして朝6時まで撮影する。家で風呂だけ入ってまた会社に行くわけです。1カ月間くらい通ったこともありますね。ちょっとした役や、ものすごくいい仕出しが付くようになる、勤務中の昼間も拘束されて有休だけでは追いつかない。ある日、撮影所から「具合が悪くて休みます」って電話している自分がいて、裏切り行為をしているのが許せなくて、これはあかんと思つたんです。

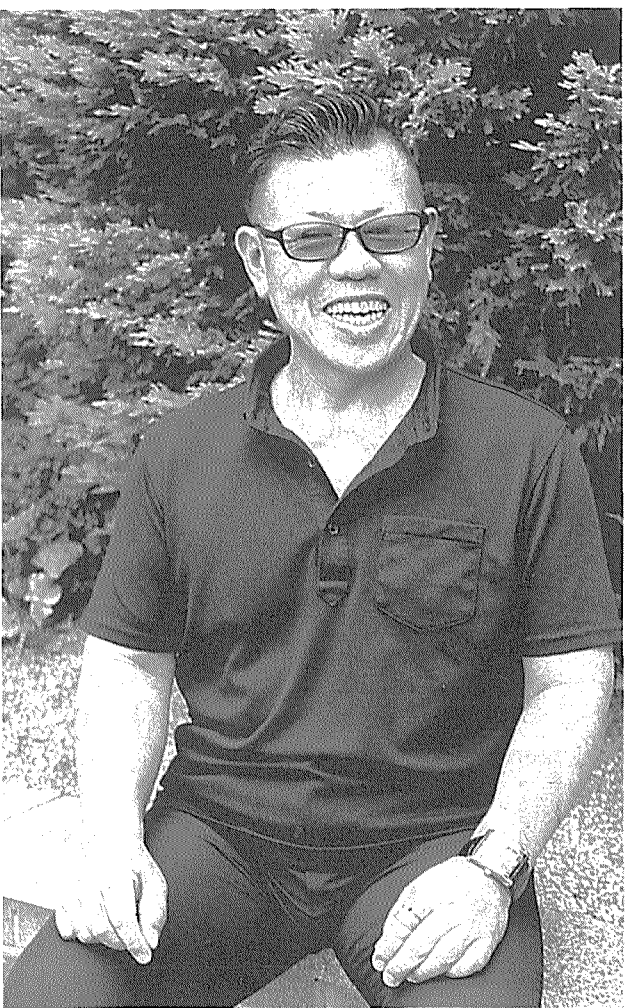
「会社を辞めて役者一本にしたい」と周囲に相談。20歳で高校の後輩と結婚し、3人目の次男が生まれたばかりだった。何でも許してくれていたお母さん(敏子さん(当時50歳))、

54歳で死去は「あなた一人やったら許してあげるけど、奥さんや子どもを路頭に迷わすことにはあかん。絶対やめて」。でも「二足のわらじはいていたら、絶対本物の俳優になれへんねん」って譲りませんでした。最後に奥さん(桂子さん(同26歳))に相談したら「決まった金額を入れるんやったら、自分の人生や好きなようにしたらええよ」。10年、20年OLしてた子やったら「あなたアホなこと言わんとさ」って蹴られたと思うんですけど、許してくれて。10年ほどお世話になった会社をやめるんです。

▲自分で期限をつけた▼「3年だけ時間をくれ」と。3年たって、同じ京都の大部屋俳優のままやったら、チャンスをつかめんや。そんな人はやったらあかんわ。そのときはしっかりした仕事に戻るからって。

▲会社員時代と同じ月二十数万円を稼ぐため、朝から晩までバイトに追われ、撮影がある日は1日65000円の仕出しに全力を尽くす。大部屋から俳優への道は、ほぼゼロ。無謀極まる挑戦が始まった▼

＝じい、水曜掲載



趣味の一つは散髪で、いつもびしょと決まっている＝JR草津駅前

「役者になる」29歳で退社



「べっぴんさん」のポストカードには土平ドンペイさんの写真も。左は直筆サイン

しちひりどんペイ 大阪市出身。私立北畠山高校を卒業後、東映松竹の各撮影所(京都)の大部屋俳優を経て上京。NHK大河ドラマ連続テレビ小説をはじめ、多数の映画やテレビなどに出演。京都などでラジオのディスクジョッキーも。本名は土平友厚。